

# インド大乘仏教瑜伽行派における「摂事分」の伝承と変容

研究代表者	早島 理
発行年	2003-05
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/6508">http://hdl.handle.net/10422/6508</a>

# インド大乘仏教瑜伽行派における 「摂事分」の伝承と変容

課題番号：13018218

平成13年度～平成14年度

科学研究費補助金 特定領域研究(2)

## 研 究 成 果 報 告 書

研究代表者 早 島 理

(滋賀医科大学・医学部 教授)

2003年 5月

## はしがき

本研究報告者早島は、文部科学省科学研究費特定領域「古典学の再構築」、B01班「古典の伝承と受容（世界）」に属し、「インド大乘仏教瑜伽行派における「摂事分」の伝承と変容」のテーマで研究を進めてきた。インド大乘仏教瑜伽行唯識学派は古くから継承されてきた種々の聖典を、自派の教義確立のため取捨選択しつつ変容を加え、「摂事分」として掌握し提示した。その流れは「阿含経典 → 摂事分 → 瑜伽行学派の個々の経典」と要約されよう。

本研究では特に、Asaṅga 無著（375-420頃）の著作『顕揚聖教論』（漢訳玄奘訳にのみ残存）の解説研究を中心に、「阿含経典 → 『瑜伽師地論』摂事分 → 『顕揚聖教論』「攝事品第一」」という、聖典の継承過程を明らかにした。あわせて、『顕揚聖教論』が『瑜伽師地論』を継承しつつ、その教義を変容させながら大乘仏教を確立する重要なターニングポイントにあることも指摘した。

以下には、この科学研究費による研究成果のうち、『顕揚聖教論』研究の主なものを掲載する。

1. 「インド大乘仏教瑜伽行派における聖典継承の研究、雑阿含から摂事分へ」
2. 「瑜伽行派における信仰について--『顕揚聖教論』「成瑜伽品第九」を中心に--」
3. 「『顕揚聖教論』「現観品第八」における現観次第」
4. 「弥勒菩薩と弥勒論師」

滋賀医科大学附属図書館



2002018634

## 研究組織

研究代表者 早島 理 (滋賀医科大学・医学部 教授)

研究分担者 なし

## 交付金額

交 付 決 定 額 (配分額)		(金額単位：千円)	
	直接経費	間接経費	合計
平成13年度	1,100	0	1,100
平成14年度	1,000	0	1,000
総 計	2,100	0	2,100

# 研究発表

## (1) 学会誌等

1. 早島理、「現代版古典の伝承と受容」  
古典学の再構築 7 2000,7
2. 早島理、研究成果中間報告「インド大乘仏教瑜伽行学派における聖典継承の研究」、古典学の再構築 8 2000,11
3. 早島理、「インド大乘仏教瑜伽行派における聖典継承の研究」  
古典学の再構築「第I期 公募研究論文集」2001,8
4. 早島理、「『顕揚聖教論』「現観品第八」について」  
印度学仏教学研究 Vol.50, No.1 2001,12
5. 早島理、「瑜伽行派における信仰について--『顕揚論』「成瑜伽品第九」を中心に--」  
日本仏教学会年報 No.67 2002,10

## (2) 口頭発表

1. 早島理、「『顕揚聖教論』「現観品第八」について」  
第52回 日本印度学仏教学会 2001,6 東京大学
2. 早島理、「瑜伽行学派における信仰について」  
2001年度日本仏教学会 2001,10 身延山大学
3. 早島理、「『顕揚聖教論』について、知法知義の視点から」  
第53回日本印度学仏教学会 2002,7 韓国 東国大学校
4. 早島理、「仏教の人間観、I 初期大乘仏教」  
光華セミナー、2002,10,19 / 11,9、キャンパスプラザ京都
5. 早島理、「瑜伽行学派における刹那滅論」、  
平成14年度 龍谷大学仏教学会 2002,12,6、龍谷大学

## (3) 出版物

1. 赤松明彦・早島理 他（共著）、戸崎博士古希記念論集『インドの文化と論理』  
九州大学出版会 2000,10
2. 梶山雄一・早島理 他（共著）、『生死を問う、医療現場をめぐる...』  
教学研究所ブックレットシリーズ 4 本願寺出版社 2001,10
3. 早島理 他（共著） 日本仏教学会編『仏教信仰の種々相』、  
平楽寺書店 2002

4. 中務哲郎・早島 理 他（共著）、『聖典の伝承と受容』  
シンクス 2003,5
5. 若原雄昭・早島理 他（共著）、『神子上恵生教授頌寿記念論集』  
永田文昌堂 2003

## 研究成果による工業所有権の出願・取得状況

なし